

2023年度 事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2023年度は、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」の最終年度となった。2年間の活動を総括し、今後のマラウイでの衛生環境改善活動の方針を、カウンターパートとも協議、設計することができた。味の素ファンデーション（AIN）から採択を受けた「妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト」は、活動2年目に入り、2022年度のベースライン調査を踏まえて、妊産婦の栄養改善のための知識研修や調理実習等の活動を行った。特に調理実習にて教えたレシピは妊婦からも好評で、家庭でも実践をしているという声も多く聞かれるなど成果が出ている。活動最終年となる2024年度は、研修や実践指導を行いつつ、事業実施前の状況と比較できるようヒアリングや知識評価を行い、活動を総括する。

オンライン交流事業 DOTS では、2023年度は山口市教育委員会とも連携し、山口市内の9つの公立小中学校で、授業の一環としてオンライン交流を実施した。2024年度は、より連携を強化していく方向で、山口市教育委員会とも具体的に目線を揃えることができた。また、DOTSの全国への普及を目指して、実際にDOTSを経験した先生が、他校の先生に経験を伝えるセミナーも、前年に引き続き実施した。

コーヒー事業では、2021年度からの5ヵ年計画を元に、コーヒーの品質改善と農家さん同士の連携強化をテーマに活動を行った。2023年度は、日本国際協力システム（JICS）のNGO支援事業にも採択いただき、生産体制の強化と販路の拡大に取り組んだ。農家グループのリーダーについては知識もかなり定着してきており、ネパール国内での販売についても試験的に動き出すことができた。2024年度以降はリーダーだけではなく他の農家さんがより品質管理をできる仕組みを整えていく。

留学生受け入れ事業については、2023年度は日本郵便株式会社の年賀寄付金事業として採択を受け、山口、福岡での多文化共生を目指して、異文化交流プログラムや在留外国人への日本語指導を実施した。地域のNGOや日本語学校とも連携し、在留外国人の方と地域に暮らす日本人が相互理解を深められる機会を届けることができた。

スタディプログラム事業では、個人参加者向けのネパールでのフィールドワークと前年に引き続き、NTTコム エンジニアリング株式会社（コム エンジ社）と連携した実践型のCSRプログラム（SDGsアクションプログラム）を実施した。フィールドワークでは、事前に参加者一人一人の興味・関心を引き出すことで、現地滞在中の活動の一部を企画してもらうなど、主体性の発揮によって学びが深まるプログラムを設計した。SDGsアクションプログラムでは、2023年7月と2024年2月にネパール、2023年9月と2024年3月にマラウイへの渡航プログラムも企画し、事前リサーチやビジネスプラン立案から、現地調査同行、調査結果の検証までをコーディネートし、2024年度以降活動を本格化させるソーシャルビジネスを決定した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額(単位:千円)
① 国際交流事業	◆山口県を起点に、全国の超中高等学校と連携し、マラウイ・ネパールとつながるオンライン交流プログラム DOTS を届ける。「世界とつながる教室」を全国に普及させることを目指して、先生に寄り添った活動を展開。	(A) 通年 (B) 山口市内の公立小中学校全 9 校 富士見丘高等学校 武山支援学校 (C) 3 名	(D)山口市教育委員会、教職員、保護者、生徒、途上国に興味のある方 (E)延べ約 1400 名	5,373 千円
	◆ネパールの農村地域における雇用創出を目指してコーヒーの生産から販売までのすべてのプロセスを手掛ける。品質の高いコーヒー生産のための知識・技術提供と収入向上のための販路確保を行う。	(A)通年 (B)ネパール (C)3 名	(D)農家 (E)536 世帯	6,567 千円
② 留学生受け入れ事業	◆日本で就労、留学を目指したネパール人への日本語教育、来日サポートを行う。在留外国人向けには、オンラインの日本語クラスや地域交流イベントなどを通して、異文化交流の場を設けている。	(A) 5~3 月 (B) 山口県、福岡県、東京都、ネパール (C)2 名	(D)日本語学校の生徒、教員、山口県、福岡県の地域住民、地域の在留外国人 (E)延べ約 300 名	360 千円
③ スポーツ交流事業	実施なし			

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額(単位:千円)
① 国際交流事業	◆マラウイ農村部における医療衛生環境の向上を目指し、現地病院、ヘルスセンターでの調査、現地保健省とも連携した衛生研修等を行う。併せて、妊産婦の栄養状態改善の	(A) 通年 (B)マラウイ共和国、兵庫県、福岡県、山口県 (C)3 名	3,812 千円

	ための栄養知識研修や調理実習プログラムも行う。		
② スタディプログラム事業	<p>◆NTTコム エンジニアリング(株)のCSR活動の一環として、協働でソーシャルビジネス事業づくりに取り組む。新たな事業づくりとともに、社員の異文化理解、スキルアップの機会も提供。</p> <p>◆国際理解、異文化体験の機会を日本の方に提供することを目的に、ネパールやマラウイでの現地渡航型フィールドワークプログラムを提供する。併せて、オンラインで参加可能なバーチャルツアーの企画も手掛ける。</p>	<p>(A) 通年 (B) 東京都、マラウイ、ネパール (C) 3名</p> <p>(A) 通年 (B) 全国及びネパール、マラウイ (C) 3名</p>	<p>10,692 千円</p> <p>1,219 千円</p>

(備考)

- 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

2023年度の事業報告書（詳細）

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2023年度は、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」の最終年度となった。2年間の活動を総括し、今後のマラウイでの衛生環境改善活動の方針を、カウンターパートとも協議、設計することができた。味の素ファンデーションから採択を受けた「妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト」は、活動2年目に入り、2022年度のベースライン調査を踏まえて、妊産婦の栄養改善のための知識研修や調理実習等の活動を行った。特に調理実習にて教えたレシピは妊婦からも好評で、家庭でも実践をしているという声も多く聞かれるなど成果が出ている。活動最終年となる2024年度は、研修や実践指導を行いつつ、事業実施前の状況と比較できるようヒアリングや知識評価を行い、活動を総括する。

オンライン交流事業 DOTS では、2023年度は山口市教育委員会とも連携し、山口市内の9つの公立小中学校で、授業の一環としてオンライン交流を実施した。2024年度は、より連携を強化していく方向で、山口市教育委員会とも具体的に目線を揃えることができた。また、DOTSの全国への普及を目指して、実際にDOTSを経験した先生が、他校の先生に経験を伝えるセミナーも、前年に引き続き実施した。

コーヒー事業では、2021年度からの5ヵ年計画を元に、コーヒーの品質改善と農家さん同士の連携強化をテーマに活動を行った。2023年度は、日本国際協力システム（JICS）のNGO支援事業にも採択いただき、生産体制の強化と販路の拡大に取り組んだ。農家グループのリーダーについては知識もかなり定着してきており、ネパール国内での販売についても試験的に動き出すことができた。2024年度以降はリーダーだけではなく他の農家さんがより品質管理をできる仕組みを整えていく。

留学生受け入れ事業については、2023年度は日本郵便株式会社の年賀寄付金事業として採択を受け、山口、福岡での多文化共生を目指して、異文化交流プログラムや在留外国人への日本語指導を実施した。地域のNGOや日本語学校とも連携し、在留外国人の方と地域に暮らす日本人が相互理解を深められる機会を届けることができた。

スタディプログラム事業では、個人参加者向けのネパールでのフィールドワークと前年に引き続き、NTTコムエンジニアリング株式会社（コム エンジ社）と連携した実践型のCSRプログラム（SDGsアクションプログラム）を実施した。フィールドワークでは、事前に参加者一人一人の興味・関心を引き出すことで、現地滞在中の活動の一部を企画してもらうなど、主体性の発揮によって学びが深まるプログラムを設計した。SDGsアクションプログラムでは、2023年7月と2024年2月にネパール、2023年9月と2024年3月にマラウイへの渡航プログラムも企画し、事前リサーチやビジネスプラン立案から、現地調査同行、調査結果の検証までをコーディネートし、2024年度以降活動を本格化させるソーシャルビジネスを決定した。

2 事業内容

(1) 国際交流事業

<1. オンライン交流プログラム DOTS >

■概要

ネパール・マラウイという未知なる国とのつながりを通して、みえる世界をひろげ、新たな一步を後押しするプログラム。ICTを活用した国際交流に取り組もうとする学校や先生をサポートすることで、子どもたちに“世界とつながる原体験”を届ける。

■活動詳細

実施日程	詳細
7月19日	実施校：富士見丘高等学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 20 名、ネパール 10 名
9月15日	実施校：神奈川県立武山支援学校、マラウイの現地教員 参加生徒数：日本 22 名、マラウイ 1 名
9月25日	実施校：山口県山口市立大内中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 35 名、ネパール 6 名
10月16日	実施校：山口県山口市立大内中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 35 名、ネパール 6 名
10月18日	実施校：富士見丘高等学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 20 名、ネパール 10 名
11月14日	実施校：山口県山口市立小郡小学校、マラウイ・ムジンバ県デイビー小学校 参加生徒数：日本 75 名、マラウイ 6 名
11月29日	実施校：山口県山口市白石中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本 35 名、マラウイ 7 名
11月30日	実施校：山口県山口市白石中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本 35 名、マラウイ 7 名
12月1日	実施校：山口県山口市白石中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本 35 名、マラウイ 7 名
12月4日	実施校：山口県山口市立大内中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 33 名、ネパール 6 名
12月8日	実施校：山口県山口市立小郡南小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 90 名、ネパール 10 名
12月11日	実施校：山口県山口市立大内南小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校

	参加生徒数：日本 32 名、ネパール 6 名
12月12日	実施校：山口県山口市大内小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 96 名、ネパール 18 名
12月13日	実施校：富士見丘高等学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 20 名、ネパール 10 名
12月15日	実施校：山口県山口市立大内南小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 64 名、ネパール 12 名
1月24日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県 ST.Pauls 参加生徒数：日本 24 名、マラウイ 6 名
1月29日	実施校：山口県山口市立大殿小学校、マラウイ・ムジンバ県デイビー小学校 参加生徒数：日本 70 名、マラウイ 8 名
1月31日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県 ST.Pauls 参加生徒数：日本 24 名、マラウイ 6 名
2月9日	実施校：山口県山口市立大殿小学校、マラウイ・ムジンバ県デイビー小学校 参加生徒数：日本 35 名、マラウイ 4 名
2月14日	実施校：山口県山口市立良城小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本 40 名、マラウイ 6 名
2月15日	実施校：山口県山口市立宮野小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 105 名、ネパール 12 名
2月16日	実施校：山口県山口市立良城小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本 40 名、マラウイ 6 名
2月21日	実施校：富士見丘高等学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 20 名、ネパール 10 名
2月22日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県 ST.Pauls 参加生徒数：日本 24 名、マラウイ 7 名
2月28日	実施校：山口県山口市立德地中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 40 名、ネパール 12 名
2月29日	実施校：山口県山口市立德地中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 20 名、ネパール 6 名
2月29日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県 ST.Pauls 参加生徒数：日本 24 名、マラウイ 7 名
3月5日	実施校：神奈川県立武山支援学校、マラウイ・ムジンバ県 ST.Pauls、ネパール・カトマンズ市サンスカール小中学校 参加生徒数：日本 22 名、マラウイ 6 名、ネパール 8 名

■成果

- ・山口県山口市の英語推進事業としての委託が実施された。それにより来年度のさらなる拡大が期待される。
- ・DOTS のオンライン見学会を実施することで、文科省の視察など、認知拡大につながった。
- ・マラウイの先生等へのトレーニングを重ねることで、新たにマラウイ国内での実施校拡大につながった。
- ・昨年度に引き続き、日本でも先生向けのセミナーを実施した。すでに DOTS を実施したことのある先輩先生の体験談を、これから取り組んでみたいと考えている先生に伝える場を提供することで、ICT の活用や英語コミュニケーションにハードルを感じていた先生たちの不安を払拭でき、新たな実践校が生まれた。

<2. ネパールにおける持続可能なコーヒー事業 (JICS NGO 支援) >

■概要

ネパールの山岳地帯において、高品質なコーヒー生産のサポートを行うことで、農家さんの経済力向上を目指すプロジェクト。コーヒーの栽培は、森林との共存を目指したアグロフォレストリーの考え方に基づき、人と地球の両方にとって持続可能な農業の実現を目指している。また、コーヒーの流通、販売のサポートも行うことで、継続的に雇用を創出できるような仕組みづくりに取り組んでいる。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・博多駅前のマルシェに出店し、ネパールコーヒーの試飲提供等も通して、コーヒーの販売とともに市民の方への普及・啓蒙活動も行った・前年度の収穫期に収穫したコーヒーの品質コントロールを行い、日本向けの輸出準備を行った
7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・コーヒー生豆約1.3を日本へ輸出・現地パートナーと連携し、農家さんの取組状況もモニタリングしつつ、約31,000本のコーヒー苗の配布を行った・福岡県の大濠公園沿いで開催された「みどりのまちマルシェ」に出店し、コーヒーのドリンク提供と普及・啓蒙活動を実施
10月～12月	<ul style="list-style-type: none">・ネパール現地では、2023年度の収穫シーズンに向けて農家リーダーとの協議を行い、収穫量や買い取り時期を決定した・10月、11月は福岡でそれぞれ2回ずつ、12月は東京で1回、福岡で1回、マルシェへの出店を行い、販売、普及・啓蒙活動を行った
1月～3月	<ul style="list-style-type: none">・現地パートナーと連携し、収穫時期の生産地の状況をモニタリングした・収穫期には、日本の専門家とも連携し、コーヒー生産地での研修を実施した・スタディプログラム事業のフィールドワークに際して、コーヒー生産地の訪問も行い、生産地の暮らし体験、村の農家さんとの井文化交流も実施・3月には、フィールドワーク参加者といっしょに東京で開催されたマルシェに出店し、実体験も踏まえて、参加者本人が普及・啓蒙活動を行う機会を創出した

■成果

- ・前年度までの活動によって村での生産体制は一定程度安定化していたため、2023年度はこれまでの体制を維持しつつ、農家さんとのコミュニケーションや現地マネジメント体制など、細かな改善に取り組むことができた。

・また、今年度は、日本で商品化した商品を通じた普及・啓蒙活動にも力を入れるべく、福岡と東京で全9回のマルシェに出店し、約350名の方に対してネパールの状況やコーヒー事業に取り組む意義を伝えることができた。

・前年度から補助金を活用して進めていた、エシカル購買を促進するためのリブランディングを本格始動させ、ブランドコンセプトや新商品のデザインを完成させる事ができた。

<3. マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（JICA 草の根支援型）>

■概要

医療施設から各家庭まで不衛生な環境状態が依然として続くマラウイにおいて、衛生面での知識、技術の移転を行う事業。現地医療機関や住民に対して、医療器具や飲料水の煮沸消毒等に関するセミナーを実施することで、衛生環境の向上を目指す。また、本事業では太陽光熱を利用してお湯を沸かす方法（ソーラーボイラー）を取り入れており、これは現地にあるもので再現可能な手法であるため、その方法を現地パートナーや病院担当者に対して、普及する活動も行っている。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・エディンゲニヘルスセンターにて、煮沸消毒の方法研修を実施 ・HSAからヘルスポランティアへの共有会 ・エンバングエニヘルスセンターにて、衛生環境改善研修を、MA, Ns, HSA, GLの5名に対し実施 ・兵庫県立御影高等学校にて「マラウイと太陽光活用」をテーマに授業とワークショップを実施
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立御影高等学校にてJICA草の根事業についてもふれながら、国際協力や海外で働くということに関心をもつ生徒に対し、キャリア教育も兼ねてお話しすることができた
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生環境整備の研修、知識テストを衛生環境マネージャーに対して3度実施。研修後には感染予防等の知識が大幅に向上した ・山口県岩国市岩国西中学校の人権講演会に登壇し、マラウイの現状や活動について紹介。講演会の後半では、実際にマラウイとオンラインでつなぎ、生徒がマラウイの現地パートナーと対話する機会を設けた ・本邦研修での学びを参加者それぞれが整理し、各ヘルスセンタースタッフへの共有方法や内容についてもC/PであるDEHOと協議を進めた

■成果

・衛生環境マネージャー配置に向け、県病院スタッフで構成されるタスクフォースチームを結成し、決定した具体的な活動内容やスケジュールに沿いマニャムラヘルスセンターをモデルエリアとしエディンゲニヘルスセンター・エンバングウエニ（バンガララ）ヘルスセンターへと活動を広げた

・衛生環境改善研修をカウンターパートである DEHO(District Environmental Health Officer)と WASH が中心となり実施した

・医療器具の煮沸消毒の必要性を学び太陽光を活用した煮沸消毒方法の導入により、活動開始前と比較し医療器具の煮沸頻度が向上した

・ヘルスセンターに来る住民やヘルスポストでの定期検診にて、ヘルストークという住民研修の枠組みを活用しながらセミナーを実施した

<4. 妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト（AIN）>

■概要

マラウイ・ムジンバ県の病院やヘルスセンターにおいて、妊婦健診における離乳食の調理サポートを通じて、妊娠期から母乳期の母親の栄養改善、及び離乳期の子どもの栄養改善を目的とするプロジェクト。子ども向けの離乳食は、各家庭で朝食として大人も食べていることから、栄養バランスのよい離乳食の普及を実現することで、家族全体の栄養改善を目指す。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・妊産婦健診時に使用できる栄養教育バナーが完成。以降、バナーを用いた栄養教育が週2回木曜と金曜に定期的実施・栄養指導や完全母乳など妊婦や家族への教育に向け、スマホで閲覧できるショートムービーの作成を行う
7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・ヘルスセンタースタッフ看護師2名、AEHO（Area Environmental Health Officer）1名 HSA（Health Surveillance Assistant）2名の計6名に対し、栄養知識指導研修を行った・NS・AEHO・HSAに対する調理実習研修が完了。9月の現地視察の際も看護師主体で調理実習を実施している様子を視察していただけた・妊婦健診時に調理実習を開始・AIN事務局と日本栄養士会の会長が現地マラウイの視察へ。ヘルスセンターでの取り組みだけでなく、ホームステイ体験をしていただきながら住民の生活や食文化を体験した
10月～12月	<ul style="list-style-type: none">・より高い栄養価の食材を使用し、それらのレシピ普及を目的とした協議をヘルスセンタースタッフや県病院栄養科・県庁栄養課と行う・離乳食の情報を多くの人が得られるように、WhasAppにてアカウントを作成・現地のポリッジの成分分析を味の素事務局の協力により実施
1月～3月	<ul style="list-style-type: none">・現地の技術指導活動に専念すべく、ヘルスセンターの栄養担当スタッフと連携した調理実習を定期的実施・ヘルスセンターへ訪れる妊産婦にむけた料理教室活動の実施・ヘルスセンターにて栄養豊富な野菜が購入できるよう、連携農家さんの選定と低規定な販売活動を開始

■成果

- ・栄養知識指導研修を実施したことで、これまで実施したことがなかった栄養指導内容、調理実習での指導、そして栄養価をあげるレシピなどを、看護師やHSA（Health Surveillance Assistant）が学ぶことができた。
- ・栄養教育バナーや栄養養育動画の完成により、これまでの教育方法をより効果的なものへと変化することができた。
- ・妊婦健診での調理実習が本格的に開始し、コミュニティマネージャーだけでなく、ヘルスセンタースタッフとも連携する形で継続実施ができるようになった。

(2) 留学生受け入れ事業

<1. 在留外国人支援、多文化共生事業（日本郵便 年賀寄付金採択事業）>

■概要

日本国内では、多文化共生をテーマにした異文化交流イベントや、日本での暮らしをより豊かにするための在留外国人向け日本語会話クラスなどを実施。一方、ネパールでは現地パートナーと協力しながら、日本での就学・就労を目指すネパール人を対象に、教育から手続き面まで一気通貫での来日支援を行う。事業全体を通して、5年、10年先の日本の将来を担う優秀な人材を育成することを目指す。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に実施する異文化交流イベントの企画検討を行うべく、福岡と山口の地域団体、学校等との協議を実施 ・在留外国人向け日本語会話クラスや相談窓口の設置に向けた準備を行う
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話クラスが始動し、毎週や隔週ペースでのオンラインクラスを運営 ・日本で活躍する外国人をゲストにお招きしたオンライントークイベントをシリーズ開催
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・10月には、福岡にて地域ボランティアによって運営される日本語教室と共同で、異文化交流BBQイベントを実施し、外国人約30名、日本人約20名で異文化理解を深める ・同様に11月には、山口県で異文化交流イベントを実施し、コミュニケーションが鍵になるミニゲーム等も交えて、外国人約60名、日本人約25名で異文化理解を深める
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に、日本国際語学アカデミー福岡校と連携し、地域の体育館を貸し切ってスポーツ交流会を実施し、2年生約60名と日本人参加者約15名でスポーツを通じた交流を行った ・3月には、同様に山口にて、在留外国人約80名、日本人約30名のスポーツ交流会を実施

■成果

- ・オンラインでの日本語会話クラスやトークイベントなどを通して、対面での参加が難しい方へのサポートや機会提供を行うことができた。
- ・異文化交流イベントを通して、楽しみながら共同作業やスポーツでの協力をする機会を設けたことで、「外国人」と「日本人」という境界線を引かずに、自然体で相互理解を深める場を作ることができた
- ・波及効果として、福岡で実施したスポーツ交流会では、イベント当日まで険悪な関係性だったあるクラスメイト同士の関係性が、一緒にスポーツをすることを通して改善するという事例がみられた
- ・2023年度の活動では、幅広く多くの地域団体、学校、また、多文化共生をテーマに活動されている大学教授などにつながることができ、今後の活動の広がりを見出すことができた。

(3) スタディプログラム事業

<1. SDGs アクションプログラム、海外調査支援事業>

■概要

Colorbath が取り組む国際協力活動の拡大、外部向けの啓発と NTT コム エンジニアリング株式会社の社員のスキルアップを目的にした協働事業。ネパールやマラウイで直面している社会課題をテーマ

に、講演やワークショップ、社員による企画提案、また、実際の現地渡航などを行うことで、「SDGs」「途上国」「ソーシャルビジネス」といったテーマに対する普及啓発を行う。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催されるワークショップにて、各国の渡航での活動内容の選定や、事業モデルの具体化にむけての意見交換・計画策定をファシリテート 事業活動のプレストにむけて、現地パートナーとのオンライン交流も実施
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> NTTコム エンジニアリング社の社長にマラウイ渡航の帯同が実現。 対面形式でワークショップを実施。事業活動案の方向性をまとめる
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> 11月28日に外部に向けたイベントを実施 NTTコム エンジニアリング社との3期目がスタート。事業活動案を具体化していく
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> NTTコム エンジニアリングより2月にネパールへ6名、3月にマラウイへ6名が渡航し、現地活動を行う

■成果

- ・9月のマラウイ現地渡航において、エンジ社の社長も現地へ帯同し、社員とともに事業検証へと取り組まれた。社長自らに、現地生活を体感してもらうだけでなく、アフリカにおけるビジネス可能性についても検討いただく機会となった。
- ・前期、後期ともに、事前のリサーチや企画立案と現場での調査や体験をバランスよく体験してもらったことで、机上の空論で終わらない、地道な事業づくりについて体感してもらうことができた。
- ・現場での事業づくりをゼロから体感してもらうことによって、参加社員の主体性は向上し、本業への取り組みや会社に対する貢献度・自己効力感が向上していると感じる。

<2. オンラインイベント>

① DOTS セミナー

■概要

DOTS セミナーとは、海外とのオンライン交流を自身の学校でも導入したい先生向けに、導入までの不安を解消してもらい、実際の導入につなげてもらうため、実施までのステップの説明や質疑応答をする無料セミナーである。2022年8月から、DOTS 実施の裾野をひろげるべく定期的に開催している。

■成果

- ・DOTS の実施経験のある先生をセミナーに招くことで、オンライン交流に興味は持ちつつも、交流の始め方や海外の方とのコミュニケーションに不安を感じていた先生が、実施へのハードルを下げるきっかけを提供することができた。
- ・DOTS セミナーの中では、すでに Colorbath とともに海外とのオンライン交流を学校で実践している先生にも、実施前と実施後の体験談をお話してもらっている。まだオンライン交流を実践したことのない先生が取り組みやすくなることはもちろん、登壇した先生自身も、改めてオンライン交流の目的や意義を理解し、今後の活動のアイデアを考えるきっかけにもなっている。

② その他イベント

日付	カテゴリー	名称
----	-------	----

4/21	DOTS 事業	DOTS セミナー 「【DOTS をする学校の裏側って...?】4/21(金)20:00- DOTS セミナー ~「世界とつながる教室」のつくりかた~ を開催します！」
5/8	その他	第 2 回アンコンシャス・バイアス大賞授賞式
6/14	ソーラーボイラー	活動報告会 「マラウイで取り組むソーラーボイラープロジェクトはじまりとこれから」
6/20	キャリア (留学生支援)	グローバルリーダープログラム 「在日ネパール人の先輩と話す会」
6/22	コーヒー	アトリエ NFT 「アート×Web3 で推進するネパールコーヒープロジェクト」
6/29	DOTS	活動報告会 「オンライン交流を活用した新しい教育実践~日本・ネパール・マラウイの繋がりを通して~」
7/24	キャリア (留学生支援)	グローバルリーダープログラム 「日本で働くときに考えることとは? イエメン出身タレックさんに聞く「日本で起業してよかったこと、大変だったこと」
7/25	コーヒー	活動報告会 ネパールの小規模農家の強みを活かす!「持続可能なコーヒープロジェクト」の裏側を公開します。
7/27	DOTS	DOTS セミナー 特別支援教育×ネパール・マラウイの教室とつながる「オンライン交流」の可能性を語ろう
7/30	フィールドワーク	夏休みの小さな挑戦に!親子・学生さん向け、ネパールからのバーチャルツアー
8/1	DOTS	DOTS セミナー 世界とつながる「探究学習」の事例紹介~「やれたらいいな」が「やりたい!」に変わる場所~
8/16	DOTS	DOTS 体験会 【通訳あり・英語が苦手な先生も OK】ネパール・マラウイの先生と交流してみませんか?
8/23	DOTS	DOTS セミナー 国際交流×授業づくりのリアルとこれから~英語科?総合?どんなねらいで?~
8/30	キャリア (留学生支援)	グローバルリーダープログラム 「日本に来て働くということ ~多文化共生の未来を考える~」
9/7	ソーラーボイラー	活動報告会 「アフリカで仕事を創る~ 国際協力とビジネス、2つの強みを活かして」
9/14	フィールドワーク	セカイひろがるバーチャルツアー ~世界の学校を見てみよう アフリカ マラウイ編~
9/26	ソーラーボイラー	途上国での栄養改善とわたしの生き方
10/4	コーヒー	大人の探究学習~1杯のコーヒーから広がるセカイ~
11/9	DOTS	日本とマラウイで考える これからのインクルーシブ教育
11/20	その他	ONE NEPAL プロジェクト MOMO タローがつなぐ 人と想い ネパールのためのワンアクションを、おこしませんか?

11/28	コム エンジ	【アーカイブ配信あり】これからの SDGs の実践と、企業人だからこそできること～NTT コムエンジ・味の素がアジア・アフリカで取り組むソーシャルビジネス～
12/6	DOTS	英語力ってなんだろう？～わたしが国際交流を授業に取り入れるワケ～
12/20	ソーラーボイラー	アフリカビジネスの本質 ～日本企業の海外事業展開の実践と挑戦～

(4) 講演等

①

日時	4/25
場所	関西学院大学
参加者・人数	約 150 名
内容	総合政策学部「SDGs 実践入門」の授業を担当

②

日時	4/27
場所	虹枝株式会社
参加者・人数	約 70 名
内容	アフリカ・マラウイにおける虹枝株式会社の貢献と、これからのソーシャルビジネスの在り方について

③

日時	4/29
場所	ユニセフ兵庫
参加者・人数	約 40 名
内容	「ソーシャルビジネスの実践とこれからの国際貢献」

④

日時	5/25
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約 40 名
内容	「これからのキャリアと世界の広がりを考える」

⑤

日時	6/22
場所	光市立浅江中学校
参加者・人数	生徒約 450 名
内容	「ハートフル DAY in 光」という人権講演会に登壇

⑥

日時	11/16
----	-------

場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約 40 名
内容	・ネパールコーヒー生産支援を通して学ぶフェアトレードの仕組み

⑦

日時	11/18
場所	岩国市立岩国西中学校
参加者・人数	生徒約 30 名
内容	人権講演。セカイの広がりとはマラウイとのオンライン交流の実施

⑧

日時	11/20
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約 40 名
内容	中間発表、ブランディングとマーケティングの違い

⑨

日時	12/14
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約 40 名
内容	最終発表：品評会「日本の高校生にネパールコーヒーを届けよう」

(5) メディア掲載等

日付	媒体	内容
4/23	The Eight Peaks	ネパールコーヒー事業に関する活動報告会開催の様子がネパールメディアに掲載
10/4	KRY 山口放送	マラウイの医療従事者が、日本の小学校で衛生管理を学ぶ様子が、ニュースで放送される
10/5	山口新聞	マラウイの医療従事者が、日本の小学校で衛生管理を学ぶ様子が掲載
10/12	日刊新周南	マラウイの医療従事者が、日本の小学校で衛生管理を学ぶ様子が掲載

10/23	JICA 中国	マラウイの医療従事者が、日本の小学校で衛生管理を学ぶ様子や、大学生と意見交換する様子が掲載
10/25	環境新聞	マラウイの医療従事者が、ソーラーボイラーを協働している虹技株式会社（姫路）を訪問し、工場見学や懇談会を行った様子が掲載

貸借対照表

令和 6年 3月31日 現在

特定非営利活動法人Colorbath

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	13,459,419	【流動負債】	6,472,408
現金及び預金	4,739,356	役員借入金	318,393
売掛金	5,720,000	未払金	649,989
前払費用	3,000,000	未払法人税等	71,000
預け金	63	未払消費税等	816,900
		前受金	4,343,336
		預り金	272,790
		負債の部合計	6,472,408
		純 資 産 の 部	
		【株主資本】	6,987,011
		利益剰余金	6,987,011
		その他利益剰余金	6,987,011
		繰越利益剰余金	6,987,011
		純資産の部合計	6,987,011
資産の部合計	13,459,419	負債及び純資産合計	13,459,419

事業所名：特定非営利活動法人Color bath

損益計算書

自令和5年4月1日 至令和6年3月31日

(単位：円)

勘定科目	<非収益事業>	<収益事業>	<合計>
[売上高]			
売上高	256,848	16,015,850	16,272,698
補助金収入	9,822,036	0	9,822,036
寄付金収入	2,740,000	0	2,740,000
売上高合計	12,818,884	16,015,850	28,834,734
[売上原価]			
期首商品棚卸高	0	0	0
当期商品仕入高	0	0	0
合計	0	0	0
期末商品棚卸高	0	0	0
売上原価	0	0	0
売上総損益金額	12,818,884	16,015,850	28,834,734
[販売管理費]			
福利厚生費	8,891	31,109	40,000
採用教育費	71,402	108,710	180,112
外注費	6,303,616	9,448,353	15,751,969
広告宣伝費	21,751	27,624	49,375
交際費	37,324	243,342	280,666
会議費	634,431	874,657	1,509,088
旅費交通費	1,530,846	4,907,485	6,438,331
通信費	118,192	167,662	285,854
消耗品費	110,386	142,659	253,045
諸会費	0	15,000	15,000
支払手数料	215,920	256,953	472,873
車両費	25,886	35,422	61,308
地代家賃	275,710	344,470	620,180
保険料	0	46,940	46,940
租税公課	365,609	456,791	822,400
寄付金	3,598,000	0	3,598,000
減価償却費	63,484	79,316	142,800
雑費	1,000	0	1,000
販売管理費計	13,382,448	17,186,493	30,568,941
営業損益金額	-563,564	-1,170,643	-1,734,207
[営業外収益]			
受取利息	86	0	86
雑収入	1	0	1
営業外収益合計	87	0	87
[営業外費用]			
為替差損	109,710	137,072	246,782
営業外費用合計	109,710	137,072	246,782
経常損益金額	-673,187	-1,307,715	-1,980,902
[特別利益]			
特別利益合計	0	0	0
[特別損失]			
特別損失合計	0	0	0
[当期純損益]			
税引前当期純損益金額	-673,187	-1,307,715	-1,980,902
法人税、住民税及び事業税	5	71,000	71,005
当期純損益金額	-673,192	-1,378,715	-2,051,907

2023年度 活動計算書
2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人Colorbath
(単位:円)

科 目		特定非営利活動に 係 る 事 業	その他の事業	合計
I 経常収益				
1	受取会費			
	正会員受取会費	0	0	
	賛助会員受取会費	0	0	
	受取会費計	0	0	
2	受取寄附金			
	受取寄附金	2,740,000	0	2,740,000
	受取寄付金計	2,740,000	0	2,740,000
3	受取助成金等			
	受取助成金	9,822,036	0	9,822,036
	受取助成金等計	9,822,036	0	9,822,036
4	事業収益			
	国際交流事業	237,948	3,882,900	4,120,848
	スタディプログラム事業	18,900	12,132,950	12,151,850
	事業収益計	256,848	16,015,850	16,272,698
5	その他収益			
	雑収入	1	0	1
	受取利息	86	0	86
	その他収益計	87	0	87
	経常収益計	12,818,971	16,015,850	28,834,821
II 経常費用				
1	事業費			
	(1)人件費			
	給料手当	0	0	0
	福利厚生費	0	0	0
	人件費計	0	0	0
	(2)その他経費			
	旅費交通費	1,530,846	4,907,485	6,438,331
	接待交際費	37,324	243,342	280,666
	消耗品費	110,386	142,659	253,045
	新聞図書費			0
	荷造運賃			0
	寄付金	3,598,000	0	3,598,000
	広告宣伝費	21,751	27,624	49,375
	外注費	6,303,616	9,448,353	15,751,969
	会議費	634,431	874,657	1,509,088
	減価償却費	63,484	79,316	142,800
	雑費	1,000	0	1,000
	その他経費計	12,300,838	15,723,436	28,024,274
	事業費計	12,300,838	15,723,436	28,024,274
2	管理費			
	(1)人件費			0
	役員報酬	0	0	0
	給料手当	0	0	0
	福利厚生費	8,891	31,109	40,000
	人件費計	8,891	31,109	40,000
	(2)その他経費			
	租税公課	365,609	456,791	822,400
	水道光熱費			0
	通信運搬費	118,192	167,662	285,854
	採用教育費	71,402	108,710	180,112
	諸会費	0	15,000	15,000
	支払手数料	215,920	256,953	472,873
	保険料	0	46,940	46,940
	車両費	25,886	35,422	61,308
	賃借料	275,710	344,470	620,180
	減価償却費	0	0	0
	その他経費計	1,072,719	1,431,948	2,504,667
	管理費計	1,081,610	1,463,057	2,544,667
	経常費用計	13,382,448	17,186,493	30,568,941
	当期経常増減額	-563,477	-1,170,643	-1,734,120
III 経常外収益				
	経常外収益計	0	0	0
IV 経常外費用				
	為替差損	109,710	137,072	246,782
	経常外費用計	109,710	137,072	246,782
	法人税等	5	71,000	71,005
	当期収支差額	-673,192	-1,378,715	-2,051,907
	前期繰越正味財産額			9,038,918
	次期繰越正味財産額			6,987,011